

声が届く社会

長久手市立北中学校

二年 川本 杏奈

この社会で私たちの声、すなわち意見はあまり届いていないのではないかと思う。みんなはそれぞれ意見を持っている。しかし、結局この社会を形成しているのは一部の人である。それでも一生懸命声をあげる人たちが多くの声を聞きたいと思ってくれている大人がいることは知っているが、まだまだ声が届きにくいのがこの社会、世界の現状だ。この声が届きにくいというのは、大きな問題でさらにこれには犯罪や非行、戦争も関わっていると思う。そして、私たちの生活にも影響してくると考える。

先程述べたように、今社会を動かしているのは市、県や国といった組織の中の一部の人だと思う。投票で議員を決めているといつても「こうしてほしい。」という私たちの要望がそのまま叶うことはなかなか難しい。政策も結局は議員だけの意見が反映されているとい

うことが十分にあり、私の周りにも「それよりやってほしいことがあるのに。」と考えている人がいる。この考えは私たちの声が届いていないことの表れだと言えるだろう。また、犯罪や非行に関しても自分の望みなどの声が周りに届かなかったことが悪に手を染めるきっかけの一つになった、という人もいるのではないかと考えている。犯罪や非行に走る人は、おそらく今あるルールの範囲内では自分のしたいことができない、楽しめないと思うからルールを破ってしまうのだろう。そのため、もし少しでも自分の声が周りに届いて気持ちが変わっていれば犯罪や非行を起こさなかったのではないかと思う。さらに世界に目を向けると、一部の人の利益のために戦争を続けている国があるというのが現実だ。私よりも小さな子供が大勢、生活に苦しんでいるという報道を見て、大人にまきこまれて子供たちが犠牲になるなんておかしいと考えた。この事態も一部の人がまわしている、声が届きにくい社会が関係している。犠牲者が出るというのは、他のさまざま場面でも起こりう

る。私は、犠牲を払ったり損をしたりする人を減らすためにも声を届けることの重要さを多くの人がまず知ることが大切だと考える。

声が届いていない、と学校生活の中でも感じるときがある。私は中学校でのコミュニケーションは社会に出るための練習で学級は小さな社会のようなものだと言った。この小さな社会でも声が届いていないということが悲しい事実である。私は聞く側としてある体験をしたことがある。私の周りにはいい意見をもっている人がいた。しかし、なかなか発言しづらく、周りに飲みこまれてしまったのだ。せっかくいい意見を持っているのに発言しないのはもったいないと思う。ここから、声を届ける、そして聞くためには、発言しやすい環境が必要だと考えた。そして私にも発言できなかつた場面があつた。委員会活動のとき、発言してみたいことはあつたが、「みんなのほうがいい意見を持っているよね。」「ここでは、私が発言しないほうがいいかも。」「と考え、理由をつけて逃げてしまった。空気を讀んで逃げてしまうことは誰にでもあると思う。

声を届けるには勇気も必要だと感じた。空気を
読むよりも、まだまだ声が届きにくいこの
現状を勇気を持って変えていくほうがために
なるのではないかというのが今の私の考えだ。

以上のことから、声を届けることの大切さ
を知り、発言しやすい環境を整えて、声を届
けやすくする必要があると私は考える。みんな
が声を上げることです。少し我慢も必要になる
が、双方のバランスを取り、平等を保てると
いいと思う。そして、今起きている社会問題、
犯罪や非行、戦争を減らし、なくしていけた
らよりよい社会、よりよい世界になるはずだ。
これは難しいことで、私一人だと綺麗事だが、
一人一人が意識して、みんながより生きやす
い社会を目指すことで、少しずつ変えていけ
ると思う。だから、私たちの生きる世界が声
を上げることのできる、そしてその声が届く、
そんな快適なものになってほしい。